

# 森のおくりもの6月



ニホンカモシカ（ウシ科）



巡回のため蝶の野原周辺を歩いていると、谷側の方向から大きな物音が・・・音の方向に目を向けるとニホンカモシカが谷から上がってきます。その後、私の存在など全く気にしていないかのように悠然と前を横切っていきました。

そのあとをゆっくりついていくと、「写真を撮るんならどうぞ」と言わんばかりに静止してこちらのほうを振り返ってくれました。

森の中を歩いていると本当に数多くの出会いがあります。少しずつですが、この森と仲良くなれているような気がします。 【写真・文 近藤晋也】

# 森のことは

自然の様子やできごとを四字熟語やことわざなどに当てはめ、森で感じた言葉をお届けします

## 『雲外蒼天（うんがいそうてん）』

4月のカタクリが咲いていた頃は春の陽射しが注いで明るかったのが、今は葉が鬱蒼と生い茂り、光が遮られて薄暗い雰囲気森です。散策路の傍らを見れば、樹木の実生がたくさん生えているのに気づきます。2年目や3年目のものでも今年芽生えたものと同じくらいの大きさなのに驚きました。光が十分届かなかったり、虫などに葉を食べられたりして成長できなかったのでしょうか。

樹木は種類によって成長の速さや性質が異なりますが、何十年か後に背が高くなれば、他の樹の陰にならずに直接日光を浴びられるようになります。でもそれは運が良ければの話で、途中で枯れたり伐られたりとたくさんの試練があるのだらうと思いました。

この様子から『雲外蒼天』という言葉を感じました。「曇っている空でもその先には必ず青い空があるように、困難を乗り越え努力して克服すればよいことが待っている」という意味です。

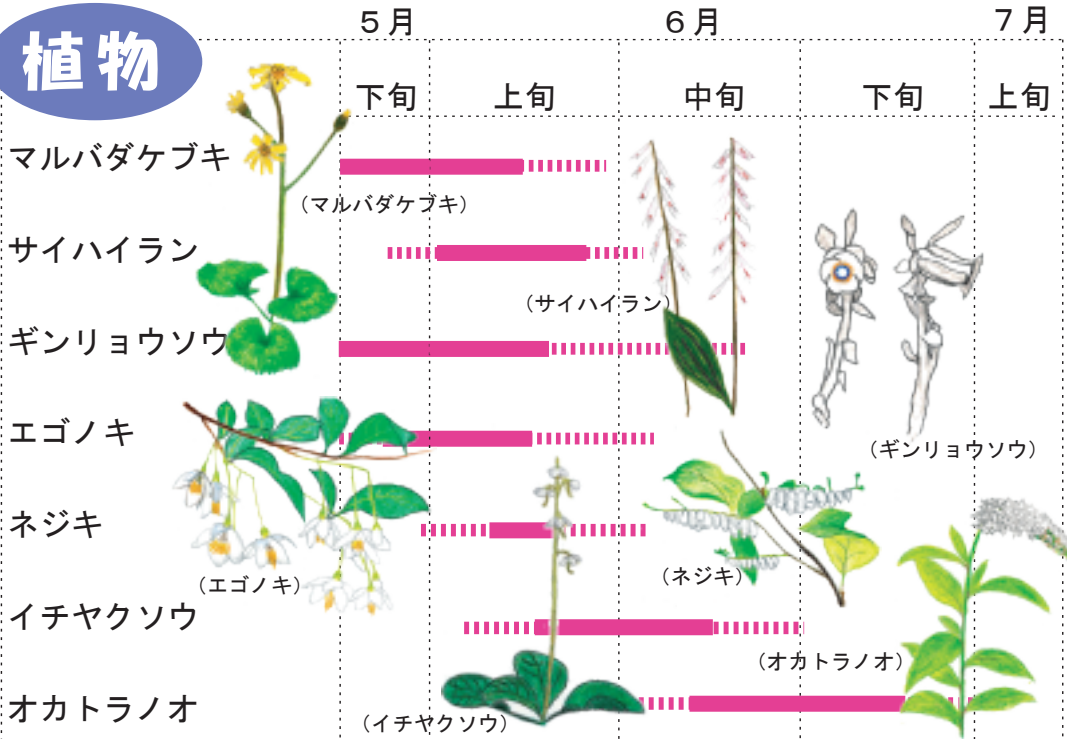
上を見上げると周りの樹木の葉が覆って天井のようです。森林の植物たちは光を奪い合って目には見えないせめぎ合いの戦いをして頑張っています。運命に立ち向かってる姿を応援しながら、自分もくじけずに頑張ればきっといいことがあるよと励まされました。

【レンジャー：新田隆一】

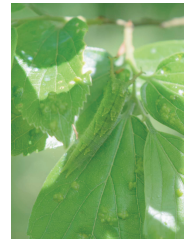


# 6月の生物ごよみ

## 植物

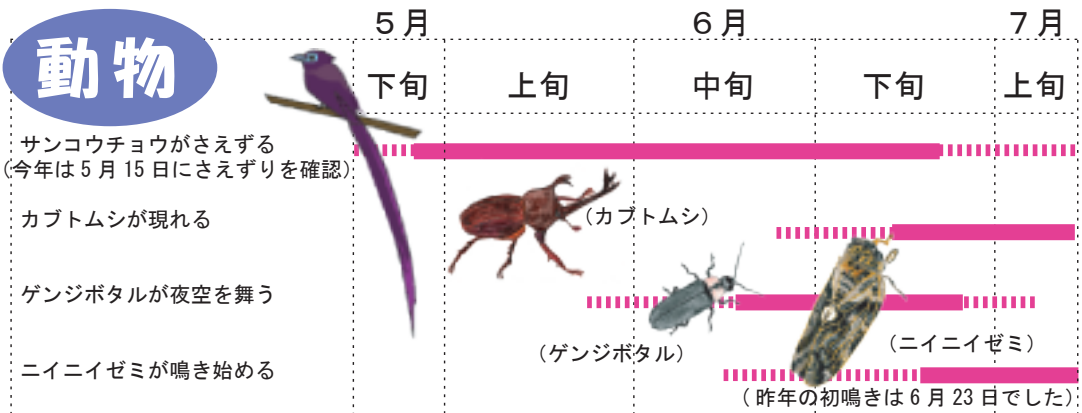


センター周辺も5月中旬には草木が生い茂り、気づくと森の中は深い緑につつまれました。センター前のエノキの葉には緑色になったオオムラサキの幼虫がいました。元気に育てば7月の中旬頃に成虫に出会うことができます。しかしその道のりは険しく、別の肉食昆虫や寄生バチにやられてしまったり、野鳥に食べられたりと危険がいっぱいです。今年も元気に育ったオオムラサキに出会えることを期待します。



オオムラサキの幼虫

## 動物



【レンジャー：齋 正宏】

※さえずり 繁殖期や縄張り宣言の時に出す鳥の美しい鳴き声。ただしさえずりと地鳴きの明確な区別はなく、一般的に複雑で長い鳴き声を「さえずり」と呼んでいる。  
 ※地鳴き 鳥の鳴き声のうち、さえずり以外のものをさす。一般的には様々で同種同個体のシグナルとして使われる。



# 森の「おとしもの」



## その14 「森のなくしもの」

先日観察センターの敷地内の「キンラン」がなくなりました。連絡を受けて現場を見ると確かに見当たりません（右写真）。二日前には見ているのですが…。誰かが掘り起こし、その跡がわからないように埋め戻したのかもしれませんが。



キンランは高さ30～70cmほどの落葉樹林内に生える多年草のランの仲間です。昨年この時期に鮮やかな黄色の花をつけて

いました。今年は葉の色が薄くあまり調子が良くないように見えました。きちんと育つかなと気になってつぼみの頃まで見守っていましたが…。

ランは埃（ほこり）のような種子を無数に風で飛ばします。小さな種には成長するための栄養がないので根にラン菌が共生して栄養をもらって育ちます。幸運にもラン菌のある場所に落ちれば生きていけるわけです。無数の種から立派な株に成長するのは奇跡のような確率かもしれません（でなければ森じゅうキンランだらけになるでしょう）。鉢植えのコチョウランと違いその周りの自然環境がそっくりないと生きていけません。掘って移動させれば間違いなく枯れてしまいます。散策しながらその花を楽しみにしていた人たちはがっかりするでしょう。

太白山自然観察センターでは採集はできません。みんなで観察する場所です。ここに来る方は、道脇に花があれば、枯枝を傍らに立ててさりげなく踏まれないようにする優しい人が多いのです。「ラン」と名がつくから、少しばかりめずらしいから、とって持っていくのは身勝手ではないでしょうか。これからこんな事が起こらないよう強く願います。

【レンジャー：木田秀幸】



昨年同じ場所で咲いていたキンラン  
2018/5/17～/22 撮影



# 館長の 猫背の太白 sanpo

ここ太白山自然観察の森では毎週日曜の午前と午後、定例のガイドウォークを開催しており、私の出番である「館長と森を歩こう」という観察会は毎月最終日曜日に行われます。

参加してくださる皆様に伝えたいこと、見てもらいたいものを探すために森の中をウロウロ。いつの間にやら視線は下向きに・・・森の中に咲く花を探す私の姿は猫背の中年男性でした。

しかしながら、この森には足元に咲く小さな花だけではなく、頭上を飛び交うさまざまな鳥たち、葉裏の陰に隠れている虫たち、私が通り過ぎるのをじっと待っている動物たちなど、周り全てが自然観察の宝庫なのです。



シロシタホタルガの幼虫

常に「前向き」がモットーの私ですが、この森では時に脇道にそれたり、時には立ち止まって生き物たちの息吹に耳を澄ましたり、また時には後ろを振り返り後戻りするくらいの気持ちでいることが必要なのだと今さらながらに感じています。

## 今回のトピック

## 夕暮れ時のがさがさ音

夕方になり、森から人の気配が消え始めた時間帯、センター脇の斜面からなにやらガサガサという音が・・・

リスかな？と音の出るほうへカメラを向けてみると、一羽の鳥が地面を突っついているのが確認できました。

カメラをズームしてみるとその口には3匹のミミズが咥えられています。

雛たちの晩ごはんでしょうか？ミミズを咥えたままとても器用に次の獲物を探していました。

その鳥の名前はトラツグミ。

夕暮れから活動し、独特のさみしげな鳴き声は、架空の生き物「鶴（ぬえ）」の声ではないかと言われていたそうです。

【館長：近藤晋也】



## ◆◆おはよう野鳥かんさつ

- ・ 森を歩きながら、野鳥に詳しい講師と夏の鳥の声や姿を探します。

6月15日(土) 6:30～8:00

【定員】定員なし 申込み不要

【料金】無料

【持ち物】歩きやすい服装、雨具、筆記用具、双眼鏡(身分証提示で貸し出しあり)



## ◆館長と森を歩こう

- ・ 観察の森の館長が、森を散策しながら楽しく解説します。

6月30日(日) 10:00～11:30

申込み不要。

時間までセンター前にお集まりください。



## ◆夜の森のかんさつ会

- ・ いつもは体験できない夕暮れから夜の森の観察会を行います。

6月29日(土) 19:00～20:30

【定員】20名

【料金】無料

【持ち物】歩きやすい靴と服装、懐中電灯、雨具

【申込み】6月6日(木) 9:00から電話で受付(先着順)

毎週  
日曜は

『ガイドウォーク』の日!

テーマは、「森と昆虫たち」

2日、9日、16日、23日

開催時間: 10:00～11:30  
13:30～15:00

申し込み不要。時間までセンター前にお集まり下さい。



現在老朽化で通行止めのヤマツツジの丘からヨシの湿地へ通じる観察路の工事は6月終了予定です。

6月の休館日

3日、10日、17日、24日

## 宮城交通バスの場合

- ① 仙台駅 乗車時間 約40分
  - ② 長町駅東口 乗車時間 約30分
  - ③ 八木山動物公園駅 乗車時間 約10分
- 【行先】①②③ 「太白団地経由山田自由ヶ丘車庫行」乗車  
(※③のみ乗車可「太白団地、山田自由ヶ丘経由仙台南ニュータウン行」)  
いずれも 公営アパート前 下車→徒歩15分

## お車の場合

国道286号線の山田交差点から太白団地方面へ。  
道々の案内板に従って約10分で駐車場へ。徒歩5分でセンター

## ♪森へおいでください♪



自然観察の森の最新情報、  
「森のおくりもの」バックナンバーは  
Webで!

2019年6月号(毎月1回5日発行)

発行:(公財)仙台市公園緑地協会

編集:仙台市太白山自然観察の森 自然観察センター  
〒982-0251 仙台市太白区茂庭字生出森東36-63

Tel: 022-244-6115 FAX: 022-244-6133

「社のひろば」URL: <http://www.sendai-park.or.jp/web/info/taihakusan/index.html>